

教科	芸術	科	科目	書道Ⅰ	学年	第1学年	系列 コース	共通
単位数	2	単位	教科書	書Ⅰ(38光村 書Ⅰ-705)				
副教材	なし							

1. 学習の到達目標

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力の向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
②思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
③主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

3. 学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学 期	4月	1	はじめに 書写から書道へ/書道で学習すること 1 漢字の書 楷書 孔子廟堂碑 楷書 九成宮醜泉銘 楷書 雁塔聖教序 楷書 顔氏家廟碑 楷書 牛橛造像記 楷書 鄭羲下碑	小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを確認する。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 「孔子廟堂碑」を鑑賞し、伸びやかな点画や向勢で丸みのある字形がもたらす柔らかな書風を感じ取る。 「九成宮醜泉銘」を鑑賞し、直線的で鋭い点画や背勢がもたらす厳格な書風を感じ取る。 「雁塔聖教序」を鑑賞して、行書的な用筆による変化に富んだ点画や、横画の強調がもたらす動きのある書風を感じ取る。 「顔氏家廟碑」を鑑賞し、肉太の点画や向勢の構えがもたらす力感あふれる書風を感じ取る。 「牛橛造像記」を鑑賞して、用筆や字形などの特色を理解する。 「鄭羲下碑」を鑑賞して、丸みのある点画や、空間を包むような大回りの運筆、悠然とした文字の構えなどの特色を理解する。
		2		
		3		
		4		
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
2 学 期	8月	17	2 漢字の書(まとめ①)半切臨書作品の制作 鑑賞しよう(文化祭) 3 漢字の書 行書の基本を押さえよう 行書 蘭亭序 4 漢字の書 篆書 泰山刻石 篆刻を楽しむ 篆刻に挑戦しよう 印の完成 5 漢字の書 行書 風信帖 6 漢字の書(まとめ②)半切臨書作品の制作	これまで学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 試作を重ね、表現を工夫する。落款を入れ、作品を仕上げる。 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成や構成を生かした表現を身につける。「蘭亭序」を鑑賞し、抑揚を利かせた用筆や、筆脈により自在に変化する文字の姿を感じ取る。 「泰山刻石」を鑑賞し、小篆特有の縦長で左右相称の構えや水平・垂直を基本とする点画構成、均一な線の太さ、蔵鋒、中鋒などの用筆を理解する。 選文・検字から押印・補刀までの制作手順を理解する。 「風信帖」を鑑賞して、重厚感のある用筆、安定した字形などの特色を理解する。 これまで学んだ古典を参考にしながら作品の構想を練り、書体や書風、用具・用材、全体構成を考える。 試作を重ね、表現を工夫する。落款を入れ、作品を仕上げる。
		18		
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
31				
32				
33				
34				
3 学 期	1月	35	7 仮名の書 仮名の基本 平仮名 高野切第三種 蓬萊切 8 漢字仮名交じりの書 創作 9 学習のまとめ 作品集作り	横の線、縦の線、転折、円運動、結びなど、仮名の基本的な用筆・運筆を理解する。 平仮名の字源を知り、正確に字形を捉える。字形や筆使いを意識しながら臨書する。 「高野切第三種」を鑑賞し、伸びやかな線質や、流れるような連綿がもたらす典型的な仮名の美を感じ取る。 「蓬萊切」を鑑賞し、端正な字形や清らかで平明な線がもたらす品格の高い書風を感じ取る。 紙面形式に調和する文字の大きさや配置について理解する。 作品集制作を通して、技法の習熟と鍛錬の積み重ねの関係性について考える。
		36		
		37		
	38			
	39			
	40			
	41			
	42			
	43			
	44			
45				

4. 評価の方法

完成した作品の得点に加えて、授業態度、課題学習等日々の学習活動において、各評価の観点(①知識・技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度)ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。